

## 平成 29 年予算決算委員会第 2 分科会会議録

1. 招集年月日 平成 29 年 9 月 15 日
2. 招集の場所 可児市役所 5 階第 1 委員会室
3. 開 会 平成 29 年 9 月 15 日 午後 2 時 58 分 分科会長宣告

### 4. 審 査 事 項

#### 協 議 事 項

#### 1. 予算決算委員会提言の取りまとめについて

##### ①支え愛地域モデル事業について

- ・ K マネーの効果検証
- ・ 今後の展開

##### ②観光交流推進事業について

- ・ 人材育成
- ・ 広域連携

##### ③水道事業会計・建設改良事業について

- ・ 耐震化対策のスピードアップ

#### 2. その他

- ・ 公共施設整備基金について（総務企画委員会にも関連）

### 5. 出席委員 （5名）

分科会長	高木将延	分科会員	伊藤健二
分科会員	野呂和久	分科会員	渡辺仁美
分科会員	大平伸二		

### 6. 欠席委員 なし

### 7. その他出席した者

予算決算委員長	澤野伸	予算決算副委員長	天羽良明
---------	-----	----------	------

### 8. 職務のため出席した者の職氏名

議会事務局 書 記	渡邊ちえ	議会事務局 書 記	林桂太郎
--------------	------	--------------	------

○分科会長（高木将延君） これより、予算決算委員会第2分科会を開催いたします。

認定第1号から認定第16号までの平成28年度各会計決算認定審査の結果を踏まえて、平成28年度の予算執行の反省を平成30年度当初予算編成に生かすよう提言を行っていきたいと思います。

平成29年9月12日と13日の予算決算委員会において、委員から発言がありました内容をもとに、本日、分科員の皆様から建設市民委員会所管についての御意見をいただき、まとめていきたいと思います。

9月12日と13日の予算決算委員会において出された意見は、主に3つございました。

ここに上げていますように、1つは支え愛地域モデル事業について。1つが観光交流推進事業について。1つが水道事業会計・建設改良事業についてでございます。

もう一点、公共施設整備基金についてということで、建設市民委員会の所管に係るところもございましたが、この件に関してはきのう第1分科会のほうでいろいろと基金のあり方等の意見をいただきまして、そちらのほうで話をさせていただいておりますので、建設市民委員会所管の第2分科会では扱わないこととしたいと思いますが、この件はよろしかったでしょうか。

〔了の意思表示あり〕

それでは、一つずつ、まず提言として取り上げるか取り上げないかということについて整理していった、後ほど成文化していきたいと思っております。

まず、支え愛地域モデル事業について、この件について御意見いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

予算決算委員会のほうでは、3年間のモデル事業が終わって再度ちゃんと検証して今後の展開をというような意見と、新たなボランティア団体の支援等を広げていくというようなことを提言としたらどうかというような意見が出ていますが、いかがでしょうか。

○分科会員（伊藤健二君） 質疑でいろんなことをいろいろしゃべらせたのは覚えているけど、この部分については余り明快な記憶が残っていません。

まだ討論もやっていないし、決算認定に関する討論をやっていないので、こういう意見がどうか、それに関する自由討議は……、自由討議はやったか。問題意識テーマの意見交換についてはやられたということですけど、なかなかこの状況でまとめるのは委員長の実力が問われますね。どうしたらいいですかね。

3年モデル事業でやって、それで新しいところへ広げるという話が、新しいところというのはどれぐらいそういうボランティア団体、組織が把握され、そういうところへこういうKマネーのプランニングが届いているのかという問題もかみ合わない議論にならないんですけど、その辺はどうするんですか。

○分科会長（高木将延君） 前回の委員会の中で出た案、意見としましては、お礼目的で始まったこの事業が3年間経過したということで、今後Kマネーの発行の額等、どれぐらいが適

正なのかというのも含めて地域活性につなげていくにはどうしたらいいのかということと、ボランティア団体のほうに付与されるわけですが、そのボランティア団体の拡充につながっていないので、もっとそのあたりを強化していったらいいのではないかというような意見が出ております。

○分科会員（伊藤健二君） 支え愛地域モデル事業とKマネーの効果を連環させて、その結びつき、波及の問題を2本の線をクロスさせて、それで答えを出そうという議論だとすごく限定された問題意識になるんですよ。

私は、もともとKマネーは重要な地域経済の資金循環を補充・補填する新しい地域政策だというふうに認識をしているんです。これをさらに保障しているのがリフォーム助成を初めとする特定の可児市の市民で市内事業者が可児市が税金、今はKマネーを使ってその商売の波及効果を広げていくという、地域経済対策として極めて足が地に着いた対策だというふうで評価をしているんですね。

そこに今度は支え愛地域モデル事業でもらったKマネーをさらに上乘せして、消費するのは市内業者だし、もらっているのは主に市内で活動しているメンバーであるので、消費に関しても、消費の喚起という点でさらに行政側が用意したメニューでその裾野を広げることができるという、今、一番消費不況で地元の中小が一番えらい思いをしているので、そこに焦点を当てて対策がとれるという一番有効な方法をやっているんだという点で、高い評価が与えられてしかるべきだと思うんですよ。

それで、十分かどうかは皆さんの意見を聞いて決めればいいと思うけど、ともあれ数はふやしてきて、Kマネーについても上乘せをしたし、リフォームで使う、この還元する、丸々じゃないんだけど、最大10万円までだから、そうやって4,000万円、5,000万円のお金が動いてきたわけでしょう。そういう点でいうと、Kマネーを軸に置いて議論すれば、より一層、今後も継続して評価すればいいと思うし、今度支え愛地域モデル事業に関しては、これは意見が二分しているんですよ。そのボランティアの部分をこういうKマネーで評価してやって、お礼として渡すという意見と、それも含めて地域の商業発展に帰着させているというのは大事だろうと。だけど、期待したとおりにみんなが申請を出してくれるかと、支え愛ポイントでポイントをためるのかといたら、半分ぐらいためると思って、いや、7割ぐらいためると思って予算を立てたら行かずに5割だったっけ、そういう中身になって、要するに予測の見込み違いが発生しているわけですね。

それほど皆さんがそのポイントをためることで自己目的化して動いているわけじゃなくて、まずボランティアがあって、何らか皆さん地域に貢献したいわということで努力してくれた。そのときにふっとKマネーとかたちでの御苦労さんというのが飛び込んできたんで、ああ、じゃあそれをもらいましょうというふうやったけど、そう一遍にすぐに広がるわけじゃない。つまり、その活動の裾野はさほど一気に広がるわけじゃないよという状況の中で、今後の展開としてはどういう点に留意しながらどうするのという議論じゃないかと思うんですよ。

そこはちょっと皆さんも感じたままを言ってもらえばいいと思うけど、ちょっと論点は2  
側面あるということ承知してやらないと、ちょっとまとめ切れないと思うんですね。

○分科会長（高木将延君） わかりました。

まずは、今度平成30年度に向けての提言案として取り上げるか取り上げないかを先に決  
めたいと思っておりまして、今、執行部がやっている方向性、あとこの前の質疑等で聞いた  
ときに今の執行部の体制とか考えの中でこのまま推移を見守っていくであるとか、継続して  
いってほしいということであれば、わざわざ提言案として出すような事案ではないというこ  
とになります。

議会としてさらにこの部分を強化してほしいというところがあるのであれば、提言として  
取り上げていきたいと思っておりますので、そのあたり今のままで十分なのか。これは提言  
というかたち、議会の全会一致を得て提言を出すというもの、そこまで強化してほしいとい  
うことであるのかという点に関して意見をいただきたいのですが、よろしいでしょうか。

○分科会員（渡辺仁美君） 第2分科会テーマとして見るとしたら、そのKマネーに重きを置  
くという観点から見ると、先ほど出た番号制度から来るクラウド管理の地域振興とか地域経  
済とかということKマネーと結びつけて、今後ひょっとしたらそういう電子マネー的な何  
か広がりが出てくるものの先駆けで、一応これも加味して考えてという提言が、第2分科会  
としてはできなくはないと思うんですが、やっぱり福祉的な地域支え愛モデル事業のほうか  
ら見ると、今の私の意見はちょっと弱いんで、含むだけになるんですけど、一つのポイン  
トとして、もし御意見あれば。

○分科会長（高木将延君） ただ、支え愛地域モデル事業という事業の所管はここにあります  
ので、ボランティアへのポイント付加も加味してうちの所管であることは確かだとは思っ  
ております。

今出た意見の中で、やはりこのまま地域経済のほうで十分に評価できるということであ  
れば、このまま執行部のほうの方法、やり方、考え方で頑張っていくってほしいというこ  
とで、提言しなくてもいいのかなというふうに今思っておりますが、いかがでしょう。

〔発言する者あり〕

○分科会員（大平伸二君） 支え愛ポイントの目的と、Kマネー自体の目的と結びつけると大  
変難しい問題が出てくると思うんですよ。

ボランティア活動の促進と、地域支え愛の事業をKマネー事業と、どう言ったらいいの  
かちょっとまとめにくいんだけど、そこであわせて提言していくということになると、ど  
う提言していったらいいのかというのが……。

さっき伊藤健二委員が言われたように、地域支え愛というその事業をやっている中で、ほ  
とんどがボランティアでやってみえて、市のほうのお礼をもらうほうと思ってやってみ  
える方が少ない、現時点で。それ以外で、新たにお礼目的でつくっていただく。それも一つの手  
かも知れないけれども、長続きしないですよ、根本的に。

本当に奉仕の心を持ってやってみえる方が草刈りとかいろんなことで活動をされるから、

Kマネーの返戻金欲しさでやるという、その取り組みの目的というのかな、入り方がちょっと違うんじゃないかなという感想を持っているものですから、それをどうやってまとめていったらいいのかという提言に持っていきこうと思うと難しいかなあと思っています。

○分科会長（高木将延君） 御意見ありがとうございます。

提言案の作成ということで、全体を全てまとめてということではないとしても、これを2つに分けて考えるということであれば、まずKマネーの流通、地域経済の活性化というところの部分に関して、これは執行部のやっているような方向でいくのか、さらに強化してやってほしいという提言にしていくのかというところが一つ。

それともう一つは、ボランティアに関するところに関して、もっとボランティアへの還元、付加を強化してボランティアをふやす方向に持ってほしいというような提言をしていくのか、今の執行部の方法で推移を見守るのかというようなところで、分けて考えていきたいと思えます。

まず、地域経済活性化について、この支え愛地域モデル事業として提言をしていく案件かどうかということ、いかがですか。

それでは、暫時休憩いたします。

休憩 午後3時15分

---

再開 午後3時24分

○分科会長（高木将延君） それでは、会議を再開いたします。

意見のある方。

○分科会員（野呂和久君） この支え愛地域モデル事業につきましては、現在、前年度で3年間のモデル事業として行われ、今年度平成29年度から本格的に実施をされているということで、委員会としては見守っていききたいという点と、現在Kマネーの対象が、高齢者やまた子育てに携わっていらっしゃる方に対してポイントを付与して、Kマネーという形を今とっています。

可児市としても、今、地域振興というところでさまざまな活動をしていらっしゃる方もいらっしゃいます。ただ、こういうところまで広げていくかという課題については、現時点ではなかなか一致を見るということも難しいところもありますので、また各団体に補助金という形でKマネーも発行されていて、そうした形で執行部のほうも努力をされているということの評価しながら、提言としては今回はしないということでどうかと思います。

○分科会長（高木将延君） ありがとうございます。

今、提言のほうにはこの支え愛地域モデル事業については提言のほうはしていかないということで意見が出ました。

提言しないということでよろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

では1番目の支え愛地域モデル事業についてはそのようにいたします。

次に、観光交流推進事業についての意見も上がっております。

観光交流はまちづくりに大切な事業ということで、イベント中心の集客中心のイベントばかりではなくて、ボランティアガイド等の養成や、また地域連携、広域とも連携いたしまして多くの観光客を集めることが必要ではないかというような意見が出ましたが、この件について提言に取り上げていくかどうかということの意見をお伺いしたいと思います。いかがですか。

○分科会員（伊藤健二君） ②観光交流推進事業についてというんだけど、市の推進事業については全体像はどこに書いてありますか。観光交流推進事業については徹底的に推進をするという話ですよ。

さっきの委員会の審議の最中にも、例えば可児市観光交流館を兼山の生き生きプラザ1階連絡所跡地につくっていきこうということで、兼山を丸ごとピックアップして広げていく、全国展開の足がかりにするという大変おもしろい企画が出ておる。城跡自身についても評価が、もう国史跡に格上げできたし、下の受け皿をつくってやってということで、兼山は湊も含めて歴史的に一つの地点になったわけですね。そこよりもちょっと南東の久々利の陶器の文化と文化財とあそこの地域開発も出てきたけど、じゃあそれが土田御前まで含めてつながるのかということとまだまだいろいろあって、いろいろ課題もあると。

だから、可児市がやろうとしているやつで、人材育成の問題と広域連携というのがテーマだよというのは何となく、ああそうだねと思うんだけど、これは可児市に向かって提言する話だから、何か文章でもない限りはちょっと提言にまもらないんじゃないでしょうか。提言をつくりますかという話をされるか、当局が出している今のトータル方針に対して、こことここが足りないからこうしてという提起があればいいと思いますけど、ちょっとこれも乗り上げていますねという話なんですけど。

○分科会長（高木将延君） 予算質疑の中では、大平委員のほうからありました広域連携、ほかの市町との広域連携の問題が一つと、あとは戦国城跡めぐりとかかわまちづくり、あとゴルフツーリズムとか観光ランドデザインの総括もこの事業の中に入ってきますので、そのあたりも踏まえてというような意味合いで捉えております。

そうした場合に、市単独で観光客を呼び込むことだけではなく、この辺の地域全体でもっと観光客を呼び込むほうに力を入れていったらどうかということと、あとは観光客のPR中心になるのではなく、それをもてなす側の観光ボランティア、ガイドボランティアとか、そのようなところの人材育成にも力をもっと入れていかないといけないのではないかというようなことだと考えております。

○分科会員（大平伸二君） 僕は2つに分けたほうがいいと思うんですけども、広域連携の話と人材育成を含めた庁内の連携、可児市市庁内の連携、いわゆる観光交流課と教育委員会とやっていること、それと都市計画課がやっていることってさまざまな仕掛けが、庁内で仕掛けはしているんですよ、観光につながるころ。その連携と、それから広報課も含めて、その連携を何とか強化して可児市としてどう観光をPRしていくかという問題だと思うんで

すよね。

その強化は僕は大事だと思ってまして、その上で、可児市に観光人口を呼んだときに、可児市この地域でいかにとどめるさせるかという問題だから、それは広域連携を模索しないかんだらうという流れなんだけれども、2つにちょっと分けて考えていただきたいなと思いますけれども。

○分科会長（高木将延君） まず、あとここに出ている、多分人材育成に関しては質疑の中でいろいろ出ていたとおり、観光ボランティア等の民間の力、地域の力をどういうふうにかかしていくかということの人材育成という意味で捉えております。

○分科会員（大平伸二君） この人材育成もさっきのKマネーも、支え愛ポイントになっちゃうんだよね、これ。そうなんです。一緒くたに考えておるんですよ。

地元で地域支え愛モデル事業やなんかはいわゆるボランティア精神でやっていただいて、そのお礼としてKマネーを発行しようかという発想もあるもので、物すごくややこしくなってきたおるもので、その辺もう……。

○分科会長（高木将延君） 暫時休憩します。

休憩 午後3時34分

---

再開 午後3時47分

○分科会長（高木将延君） それでは、会議を再開いたします。

ほかに御意見のある方。

大平委員、今のことをもう一度いいですか。

○分科会員（大平伸二君） 今の同じことでございますのでよろしく申し上げます。以上です。

○分科会員（伊藤健二君） 今、大平委員の言われたとおりで、人材育成については強く推進してもらおうように要請をしようではありませんかということです。

それで、戦国城跡めぐりだとか観光資源の開発、あるいは調査だとか、まだやるべき前段の作業がたくさんあると思うんですよね。それで、城跡といっても市内には10ほどあったと言うが、ここにこういう形が見えるというのはまさに長山城と金山とそして久々利城のところ土塁があるという程度でしかないんですよ。だからまだまだ調査もし、それを学術的な評価付けの問題もクリアした上でないと、観光資源として強く県内に全国にアピールしていこうというのはまだ距離のある話。今できることは、そういう状況の中でも人が集まってきたり始めてきているわけで、それを新設間もない観光交流課がきっちりと、まず地元の各動いてくれている人たち、見守り隊とかお守り隊とか城を何とか隊とかいう形で組織ができています。3カ所あるわけですね。それが山城連絡協議会をつくっているわけなので、そこをより発展させて、それを足がかりにしつつ、いわゆるオール可児で地域の人々のボランティア全員とやる気が組織され、今可児市が描いている観光交流の流れの中に、人々の、市民の参加を組織するようにきっちりと役割を担ってもらおうということで、議会側からも要請と激励を送っていくということが必要じゃないかと思っている。

地域広域連携については別途検討をよくすると。とりわけ各セクションに核になる施設やいろいろな流れがあるので、そこを整理しておかないと話が常にランドデザインの大きな枠の中のごちゃまぜになってしまうと、個々の到達点が見えなくなるので、議会として提言、あるいは要請する際には人材育成の問題に少し絞り込みながら、観光交流課の役割と現地の市民諸団体の連携強化を要請していくということでまとめられてはどうでしょうか。ちょっと文案についてはまた検討していただければと思います。

○分科会長（高木将延君） ありがとうございます。今御意見いただきました。

観光交流推進事業については、人材育成、ボランティアガイドの養成等に重点を置きましてそちらのほうで提言を行っていききたいと。広域連携については今回は見送るということだと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「いいと思います」の声あり〕

続きまして3点目、水道事業会計・建設改良事業についてということで、耐震化対策をスピードアップしてやってほしいというような意見が出ておりますが、この件に関して提言に盛り込んでいくかどうかということの御意見を伺いたいと思います。

○分科会員（伊藤健二君） スピードアップという話はもちろん必要なことでしょうけれども、今全力で必要なところへ出せる資金を出して、危険なところから優先的に手をつけてやっているんで、いつまでにどれだけの量をこなせという具体的な指標、メルクマールを出せるなら別ですが、それも出せないままでただスピードアップを要請するというのはほとんど意味がないと私は思うので、この案件についてはちょっと提案者が何を言いたかったのかよくわからないこともあって、とりあえず聞きおいてもいいと思います。特に提言という対象にはならないと思います。

○分科会長（高木将延君） 今伊藤健二委員からも意見がございました。

水道のほうも耐震化を考えておまして、随時重要な箇所から今もうやっているということで、その方向で議会も応援していくという程度でとどめたいなと思いますので、これは提言としては扱わないということにいたしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔了の意思表示あり〕

それでは観光交流推進事業について文案を作成していきたいと思います。

ここで暫時休憩いたします。

休憩 午後3時52分

---

再開 午後4時02分

○分科会長（高木将延君） それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

当分科会から予算決算委員会に報告する提言案を作成いたしましたので、副分科会長より原案について提案させていただきます。

○分科会員（野呂和久君） それでは、分科会から提言としてまとめました案を今読み上げます。



観光交流推進事業について、観光客誘致の手だてを積極的に打ち出し、幅広い人材を市内から募り、ボランティアを育成するとともに地域づくりを推進することを提言案として出したいと思います。

○分科会長（高木将延君） ありがとうございます。

このとおり決定し、平成 29 年 9 月 21 日の予算決算委員会において報告することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議なしと認めます。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

閉会 午後 4 時 02 分

前記のとおり会議の次第を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成 29 年 9 月 15 日

可児市予算決算委員会第 2 分科会長